

令和7年度 第59回 中学生の「税についての作文」

町田市教育長賞

『税金が教えてくれたこと』

町田市立薬師中学校 3学年 岡 心咲

私は小さいころ腎臓の病気で、長いあいだ病院に通っていました。保育園に通っている時から、毎日のように病院に行くことが当たり前の生活でした。検査や薬が苦手でしたが、先生や看護師さんに支えられて少しずつ良くなっていったことを今でも覚えています。

そのとき、子供医療費助成や健康保険のおかげで、母が「ほとんどお金がかからなかったんだよ。」と教えてくれました。当時は意味がよく分かりませんでしたが、今はそれが税金で支えられているからだと理解できるようになりました。

ただ、小さい頃の私は税金に対してあまり良いイメージがありませんでした。お菓子や文房具を買うとき、値札に書いてある金額よりも会計のときに少し高くなっていることがありました。だまされているのか心配になって母に聞いたことがあります。そのときに「これは消費税なんだよ。」と教えられましたが、子供の私は「せつかくのお小遣いが減ってしまう。」と感じて、税金は嫌なものだと思っていました。

しかし病院に通った経験を通して、私の考えは大きく変わりました。

もし税金がなかったら、私が受けてきた治療はとても高いお金が必要だったはず。病気がよくなるまで毎日のように病院に通ったので、その費用は家族にとって大きな負担になっていたと思います。けれど実際には、病院代の心配をそれほどしなくてもよく安心して治療を続けることができました。税金があったからこそ、私は健康になれたのだと思います。また、病院には私と同じように治療を受ける人がたくさんいました。その人たちが安心して治療を受けられるのも、やはり税金があるからです。以前は「お小遣いを減らす嫌なもの」と考えていた税金が、実は「みんなの健康を守る大切なもの」だったと気づきました。

学校で学んで、税金は医療だけでなく、教育や道路、消防や警察など、私たちの生活のいろいろなところに使われていることも知りました。私が通っている学校も、教科書や建物の一部は税金で支えられています。こう考えると、税金は自分の生活のすぐそばにあるとても身近なものだと思います。

小さいころ病気で苦しかった自分を支えてくれたのは家族や病院の先生たちですが、その陰で大きな土台を作ってくれていたのは税金でした。税金を納めることは、将来の自分や家族、そして知らない誰かを助けることに繋がるのだと感じています。これからは社会を支える一人として関わっていききたいです。